

提出日: 2024年3月27日

展覧会の価値を知る

多摩美術大学プロダクトデザイン学科卒展2024

ネットワーク情報部
学籍番号 NE23-1054B
丸山 諒

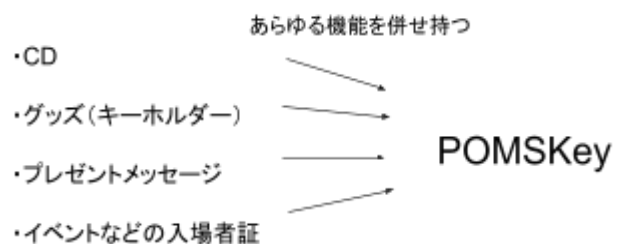
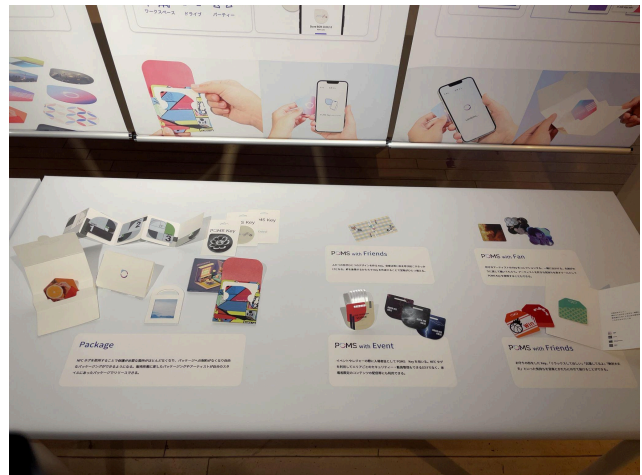
1.なぜこの展覧会を選んだのか

私が今回訪れた展覧会は「多摩美術大学プロダクトデザイン学科卒展2024」である。私がこの展覧会を選んだ理由は教員推薦展示会リストの4つの展覧会の中で一目で見たときに最も興味が湧いたからである。私はもともとデザインという分野に興味があり、特に情報のデザインというよりは物など娯楽としてのデザインに興味があり、プロダクトデザイン学科という名前から自分の興味により近い展覧会だろうと予想したためこの展覧会を選んだ。また横浜の赤レンガ倉庫での開催だったため自分の家から行きやすく、さらに場所自体に魅力のある場所なので一石二鳥であると感じてこの展覧会を選んだ。

2.この展覧会で興味を持ったもの

私がこの展覧会で興味を持ったものの一つ目に「POMS」というものがある。これは portable music systemの略称となっており、その名の通り音楽を形あるものとして持ち運ぶことができるというものである。POMSKeyという小さなタグのようなものとアプリケーションが連動していて、タグを読み込むことでそのタグに入っている曲を聞くことができる。このタグは公式のものと、個人で好きなように楽曲を入れたりデザインを決めたりできるものがあり、自分の好きなように作ることによって形あるものとしてコレクションしたり、友達にメッセージと共に音楽をプレゼントすることができるようになるそうだ。他にもPOMSKeyをイベントなどの入場者証として利用したり、アーティストが好きな気持ちを表現するキーホルダーのような使い方もできるという。私はこのプロダクトを見たときにまさに最先端のCDであると感じ、とても魅力的に感じた。スマホなどの登場によって需要が低くなったCDをスマホに合うように作り替え、さらにそこにデザイン性や利便性を組み込んでいるとても画期的なアイデアだと思った。

興味を持ったものの二つ目として「airy」というものがある。これは視覚的に楽しむ種類のデザインであり、立体構造のディスプレイの役割を果たしている。シリコン素材で作られたディフォーマブルディスプレイと呼ばれるその造形は、その特徴的な形や動きを生み出すために円に沿って等間隔にスリッドを入れることで生み出されている。揺らしたり、弾ませたりと動きに合わせて映像を変化させたり、複数のディスプレイを組み合わせることでそれぞれに異なる映像を流したり、シーンに合わせてさまざまな表情を楽しむことができるという。私はこの特徴的な立体物をディスプレイと捉えて映像を映し出すことでさらに動きの加わった映像体験というものが今までにない新しいアートであると感じた。形がただ単に特徴的であるのではなく、それ自体が見たときに美しいと感じさせられるような魅力があったため、一目見たときこの展示物に興味を持った。





3. 展覧会全体の趣旨

私はこの展覧会のコンセプトは「全く新しい概念やデザインの創造」のような大まかなものではないかと考えた。この展覧会の展示物は置物や乗り物、便利アイテム、玩具などさまざまなものがあり、デザインも含めて今までにない初めて見るような考え方や概念がたくさんあって全く新しいモノがほとんどであった。プロダクト自体に特に共通する何かがあるようには感じられなかったが、展示物の説明を読んだりしてみるとそのどれもがそれまでの自分の中にはなかったような概念や考え方が反映されていて、とにかく新鮮な感覚を味わった。そのため、私はこの展覧会全体の趣旨は誰もが夢見るような最先端のプロダクトの作成などではなく、誰も考えたことの無いような新しい概念の創造のようなものなのでは無いかと考えた。

この展覧会は赤レンガ倉庫の2階3階で開催されており、2階のブースでは新しい概念を用いた「新しい製品」、3階のブースでは新し概念を用いた「新しい芸術」というふうにそれぞれのテーマに沿ってブースを分けることで展覧会の趣旨をわかりやすく伝えているように感じられた。その他にも展示物のすぐ横にタブレット端末が置かれていることが多く、映像を使って説明することによりわかりやすく、多くの情報を来場者に伝えられるように工夫していると感じた。このようにすることで、どんなことを考えて制作したのかなどを伝えることを通して、全体の趣旨を来場者にイメージしやすくさせているのでは無いかと私は考えた。

4. 感想

私はそもそも展覧会というものに行くのが初めてのことでとにかく新鮮な感覚を感じるが多かった。同年代の人たちがどんなことを考えてどんな活動をしているのかということは今まであまり考えてこなかったことなので、実際に今自分と同じ大学生である人たちがどれほどのスケールでどんなことを行っているのか、これらの一部を知るととてもいい機会になった。それだけでなく、展示物の中には一つの製品として、これから実用化されていったら面白いだろうと思わせてくれるような物がたくさんあり、それらを見ているだけで近未来を覗き見ているような感覚になってとてもワクワクした。そのプロダクトを発売したきっかけやそれらを作る上で考えていたことなどが記されていたりするため、そこから多くの知的刺激を受け、これこそが展覧会に行くことの価値なんだと体感した。これからも自分の気になる内容の展覧会だったり発表会があればいつてみるのもいいかもしれないと感じさせられた。